

第7回防災活動大賞公開選考会

開催日時:令和8年3月8日(日)13:30~16:00

開催場所:岐阜県庁 20階 会議室

参加団体:11団体

参加人数:67名

清流の国ぎふ 防災・減災センター長 開会挨拶

センター長を仰せつかっております能島と申します。

清流の国ぎふ防災・減災センター 第7回防災活動大賞の選考会を開催するにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

この防災活動大賞は、当センターが地域防災の普及啓発事業の一環として開催しているもので、地域で実践されている防災活動について発表していただき、皆様と共有するとともに、その中から特に優れたものを防災活動大賞として表彰するものです。令和元年から継続的に開催しており、昨年度の第6回までの経過について申しますと、延べ67団体から発表があり、延べ18団体に「防災活動大賞」を授与し、8団体に「みんなで選ぶ特別賞」を授与させていただきました。また昨年1月には、センター設立10周年の記念事業として、「防災活動大賞グランプリ」を開催し、1団体にグランプリ、3団体に準グランプリを授与させていただきました。

本年度、第7回として募集しましたところ、11団体からのご応募があり、こうしてポスター発表の形でご披露する次第です。それぞれの防災活動について、本日までご参加の皆様と活発に意見交換していただきたいと思います。また、それで終わりにするのではなく、本日の成果をそれぞれの活動の場に持ち帰って、良いところを取り入れて活動を活性化させ、防災の輪を広げていただきたいと思いますと考えております。

今回ご応募いただいた皆様、本日まで参加いただいた皆様に御礼申し上げるとともに、実りある選考会になることを祈念して、私からの挨拶とさせていただきます。本日はよろしく願いいたします。

清流の国ぎふ 防災・減災センター
第7回防災活動大賞
 8 March 2026

公開選考会

清流の国
 ぎふ**防災・減災センター**



13:30～	開会式	挨拶 センター長 副センター長(県)
13:40～13:45	全般説明	兒玉
13:45～14:00	簡易発表	1団体:60秒
14:00～15:00	公開選考会	審査
15:00～15:02	投票	2分間
15:02～15:30	交流会	
15:30～16:00	表彰式・閉会式	表彰:センター長 コメント:審査員(1分)
16:00～	撤収	16:30までに撤収

参加団体名	
1	牧田女性防災クラブ
2	学生と共に 炊き出し大訓練実行委員会
3	御嵩町上之郷の地域密着型防災士纈纈
4	清流の国ぎふ 女性防災士会
5	土岐市肥田防災の会
6	飛騨市防災士会
7	岐阜県立大垣南高等学校 家庭クラブ
8	岐阜大学 地域マネジメント研究室
9	金華自治会連合会
10	岐阜市立島中学校
11	岐阜大学防災サークルたすく

『みんなでつくる「防火・防災」の輪』

【活動内容の特徴】

クラブ員と共に！

女性防火クラブから女性防災クラブへの組織の改編に伴い、火災だけではなく、防災全般の知識を身につけて、地域の人と共に防災について考える土台を作り上げて行く。

【団体の紹介】

- ・大垣市上石津町牧田地区
- ・令和7年4月～（設立初年度）
- ・メンバー11人
（部長以下クラブ員10人／顧問1人）
- ・「防火・防災の輪」をつくり、広げていく

【アピールしたい防災活動の成果】

R7年牧田地区文化祭で、非常食とトイレを考える

- ・非常食の食べ比べ？体験？？を行い、参加者の災害時の食事についての大切さを知ってもらえた。
- ・非常時のトイレを掲示物にて説明をして、重要性を知ってもらえた。



【活動内容の詳細】

終わらない防災ストーリー、進化中

- ・自治体ごとに考え方や組織のあり方はさまざまですが、これまで私たちは「女性防火クラブ」として活動を続けてきました。一方で、一般行政と消防行政では役割や枠組みが異なることから、活動の目的をあらためて見つめ直す必要を感じるようになりました。その結果、より分かりやすく、幅広い防災活動に取り組むため、「女性防災クラブ」として新たな一步を踏み出すこととなりました。
- ・防災を身近に感じてもらえるよう、「食」と「トイレ」をテーマにしたブース出展を行いました。
- ・夏休みを活用し、イラストを交えながら子どもたちと一緒に持ち出し品について考えました。



【活動成果】

<実施者から見た効果>

- ・防災はハードルが高いものだと思っていましたが、身近にできることから始めればよいのだと感じました。
- ・「食」や「トイレ」というテーマは分かりやすく、展示の缶パンもおいしく、防災を身近に感じる事ができました。

<参加者等から見た効果>

- ・缶パンは非常時だけでなく、山登りなど日常の場面でも活用できそうだと感じました。
- ・トイレの重要性について考えさせられました。
- ・非常食は、思っていたよりもおいしくて驚きました。

第1回学生と共に 炊き出し 大訓練

【活動内容の特徴】

実践型共助防災訓練 ←こんな感じでどうでしょう
地域コミュニティ再生プログラム及び
青年リーダーの育成
『次世代(学生)の担い手となる、
実践型共助防災訓練』
1500食の炊き出し大訓練

【団体の紹介】

池田町防災士連絡協議会を中心に、
NPO法人岐阜県青年のつどい協議会
・町内各小中高専門学校・各種団体
・企業に参加を呼び掛け今年度、
炊き出し大訓練実行委員会を発足させた。
実働人数120名 加盟人数 2000名

【アピールしたい防災活動の成果】

地域コミュニティの向上と災害時の基盤作り

学生・地域・関係団体が協働して炊き出し訓練を実践した結果、
世代を超えた連携が生まれ、**地域コミュニティの共助意識の向上**
が図られた。また、役割分担や連携体制等が明確になり、**災害時**
における**迅速な行動に繋がる基盤作り**が構築された。



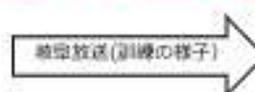
【活動内容の詳細】

地域一丸の実践型防災訓練

『学生と地域が協働する炊き出し共同防災』
本訓練では、池田町赤十字奉仕団や青年団体が講師となり、池田町役場の駐車場を会場に、
学生・地域住民・防災関係団体・企業が連携して、地元食材を使い1500食のジビエカレー
の炊き出し訓練を実施した。

学生が事前準備から参画し、調理手順や配膳動線の確認など、災害を想定した実践的な
運営を学んだ。また、防災知識に加え、チームワークの重要性を学び、地域にとっても持
続可能な共助防災訓練ができた。

**机上訓練では得られない実践的な学びから、
地域の防災意識と防災力の向上に繋がった。**



【活動成果】

<実施者から見た効果>

- ①防災訓練をとおして、地域コミュニティ再生と青年リーダー育成を柱とする、防災訓練の新たな枠組みを構築できた。
- ②池田町日赤奉仕団や青年団体の知見を活かすことで、実践に即した地域防災の底上げに繋がった。

<参加者等から見た効果>

- ①学生が訓練に参加する事で、実践的な防災知識と共助の意義を身に付いた。
- ②災害を想定した炊き出しを実践したことで、実際の災害発生時に、地域住民との協働作業をスムーズに実行できる体制を整られた。
- ③炊き出しを体験したことで、「自分にできる事は何か」を考える良い機会となった。



親子で学び・考え・実行（教員も巻き込む） 上之郷小学校親子防災授業



御嵩町立上之郷小学校

【活動内容の特徴】

親子で考えて楽しく防災授業を！

全校生徒80人弱の小さな小学校で授業をするにあたり、上之郷小学校校長先生・教頭先生からどのようなことをやりたいかを聞き取り、アイデアを提案。授業に向けて打合せを密に行い、参加者（生徒・保護者・各先生）が、楽しみながら学べるように取り組んでいる。

【回体の紹介】

- ・可児郡御嵩町上之郷小学校にて活動
- ・平成29年9月～（9年ほど）
- ・現在の会員人数1名+a（先生&保護者）（実働人数1名/総人数1名）
- ・アピールポイント

親子で楽しく学び、災害に備える。

【アピールしたい防災活動の成果】

R7年度地域にある地名からわかる自然災害をテーマに！！昨年復活させた学校に置いておく自助バックの確認・たりないかな？と思う物の補充、自助バックの大切さを新1年生向けに説明させていただいた後、地名に隠れている（主に字、小字）についてお話をさせていただきました。意外な地名（上之郷字崩・次月字自害ヶ谷など）があり、子ども達も盛り上がったが、保護者の盛り上がり方がすごかった。



【活動内容の詳細】

- 自分の命は自分で守る**
- 平成23年の集中豪雨で浸水被害を受けたことを契機に、上之郷小学校では家庭や地域と共に防災教育が継続して行われている。毎年1回親子防災の授業で、【家庭内DIG・備蓄の話・過去に身近なところで起きた災害についてや、これから起るであろう災害について・ハザードマップの見方・自助バック作成のススメ】の話題提供。
 - 楽しく学び、災害に備えるために何が必要か？どのような知識があればいいか？を親子で相談し、登下校を一緒にしている分回ごとに話し合ってもらい参加者全員でワイワイガヤガヤ考えを出し合ってもらい、発表していただき全体で共有してもらおう。
 - 授業で学んだ事の一部を宿題に出して、家族（祖父母）を巻き込み話し合ってもらおう。
 - 共有された中で学校でできることや学校に必要な事があれば、教員が積極的に取り入れていただく。



- 親子防災授業で、災害は同じような場で起こっている！という言葉に共感した、当時新任（現在3年目）の教師が、その年の御嵩町防災アカデミーを受講し、無事に防災士を取得し、現在は学校内で防災活動を行っている。



【活動成果】

実施者から見た効果

全校生徒と保護者に参加していただけるので、総勢160人ほど。1年生や2年生はわからない事が多く、上級生である4年生・5年生・6年生が上手に教えてくれるのがありがたい。毎年保護者も一緒に考えてもらえるためこれまでにいった、ハザードマップの見かた地震が起こった場合の行動など災害に対する知識が少しずつ備わってきていると感じています。

＜参加者等から見た効果＞ 参加者からの復習より抜粋

- 地名に入っている文字で危険な場所が分かることは知っていたが、実際に調べたことがなかったので調べてみたいと思った。
- 字（アザ）の名前で災害のリスクを知るというのを興味深く拝聴しました。
- 漢字の意味等まだ習っていない低学年にはむつかしかったかもしれないですね。
- 今年は兄弟が離れ離れだったので、一緒にしてほしかった。

家庭、地域、職場に 「暮らし目線防災」の普及を目指した活動

【活動内容の特徴】

「暮らし目線防災」

「自分の命は自分で守る 大切な人の命も守る」
「誰もがどんな時でも笑顔になる事生きる事」を柱とし、家庭、地域、職場において会員それぞれが得意とする「暮らし目線防災」の普及啓発活動を行っています。

【団体の紹介】

- ・岐阜、西濃、中濃、東濃地区
- ・2017年1月～現在（9年目）
- ・実質人数14人、総人数19人
- ・地域、職場の垣根を越えて、「暮らし目線防災」の普及に取り組んでいます。

【アピールしたい防災活動の成果】

できることをできるだけ（勉強会と情報交換）

会員は地区も職業も違います、興味も衛生、乳幼児、介護、地区防災など多様です。その違いを活かして、毎月1回1時間Zoomで勉強会を開催。情報交換や知識の共有が会員の資質向上につながり、家庭、職場、地区などそれぞれの防災に役立っています。



【活動内容の詳細】

2025年は「要配慮者防災」に向き合う

- ・講演会：高齢化社会のなかで老いと防災に向き合う 講師：金藤純子氏
身内の介護のために防災活動を休止する会員が増える現状に、遠距離介護を実践されている講師を招き学ぶ場を設けました。参加者38名
- ・Zoom勉強会：テーマを設けて会員同士で話し合い、学び合っています。



- 第1回 6月 あなたにとって防災とは？
- 第2回 7月 災害発生！身の守り方
- 第3回 8月 あなたにとって避難所の女性目線とは
- 第4回 9月 避難生活の洗濯
- 第5回 10月 避難生活とペット
- 第6回 11月 第1回 乳幼児防災について
- 第7回 12月 第2回 乳幼児防災について



- ・被災地ボランティア：石川県穴水町
 - ①仮設住宅近況調査訪問
 - ②椅子に座って行う体操
 - ③2026年カレンダー塗り絵などを実践
- ・ハートフルフェスタ（岐阜市）
災害時トイレ、おさんぽゲームなど



【活動成果】

<実施者から見た効果>

これまでの耳からの知識だけじゃなく、話す内容を考えることの大切さを知りました。Zoomやイベントなどの機会で見えるので、普段離れていても意見交換できることが防災力向上につながっています。勉強会においてそれぞれの職業や立場からの情報・意見交換が防災活動に活かされています。

<参加者等から見た効果>

- ・防災も介護も「知る事」が大切と気づいた。
 - ・自主防災の意識が大切だと思った。
 - ・住んでいる集落は高齢化が進んでいる。介護と防災と一緒に考えるべきと分かった。
 - ・介護施設に勤務しているが、避難経路をもう一度確認したい。
- （老いと防災講演会アンケートより）

未来を守る子ども向けAED教室

【活動内容の特徴】

防災意識の向上・非常時の対応手段を知る

定期的に防災に関する講義を開催・小学校での授業等をして地域の防災意識向上を目指しています。また、単なる知識の習得に留まらず、災害発生時に「家族が一つのチーム」として機能するための実践的なトレーニングを重視しています。

【団体の紹介】

- ・土岐市
- ・3年
- ・実働10人／総人数16人
- ・幅広い年齢層が活動中！

【アピールしたい防災活動の成果】

子から親へ、親の背中を子に

親世代への参加を子供から促し、講習中は親の真剣な姿を子供に見せることで「誰かを助けることの責任感と大切さ」を強く印象付けるとともに、有事の際に家族とともに危機を乗り越える実践的な意識付けを行いました。



【活動内容の詳細】

子供でもできる救済手段

AED講習

消防署と連携し、親子救命講習を開催しました。「子供が主役」という点に重きを置き、子供だからできることや家で専用の機材が無くてもできる心臓マッサージの練習方法など様々なことを実施しました。

- ・プロ直伝の「家庭用」スキル：専用機材が無くても、身近な物で心臓マッサージを練習する独自メソッドを伝授
- ・逆転の発想による動機付け：子供から親への参加を促すことで、家族の主体性とコミュニケーションを最大化
- ・実効性のある役割分担：「もしも」の時に誰が何をするのかをその場で決定し、即応できる「家族チーム」を育成

救命のプロによる直接指導は、参加者の不安を自身に変え、親子の対話を通じて「子供の無限の可能性」を再確認させる、教育的価値の高いプログラムとなっています



【活動成果】

<実施者から見た効果>

今回重視したのは救急の成功率を上げる「チーム力」です。有事に迷わず動けるよう家族内での役割を重点的にシミュレーションしました。実施者としては家族構成に合わせた具体的な知識を取得。親子の会話を通じて「命の尊さ」を共有できたことは家庭の防災意識を高める大きな一歩となりました。

<参加者等から見た効果>

- ・不安から確信へ：「子供では難しいのでは」という不安を払拭し、積極的な姿勢が目立ち高い学習効果が見られました。
- ・家庭内での意識共有：家族が同じ体験をすることで、家庭内での防災・救急に関する共通言語が生まれました。

防災教育を点から線、線から面へ -防災士会×教育委員会（学校）×危機管理課の地域連携-

【活動内容の特徴】

それぞれの願い・強みを活かした役割分担
市内の小中高等学校での防災教育（避難所設営訓練含む）の充実化を目標に掲げる教育委員会、仕組作り、ネットワーク構築のノウハウを持った危機管理課、市内の防災活動を担う人材の活躍の場を求める防災士会の願いがひとつになり、それぞれの強みを発揮した活動。

【団体の紹介】

- ・飛騨市内全域
- ・令和元年～（総合支援事業は令和6・7年度）
- ・会員数287名（令和7年6月現在）
- ・実働会員26名（講師・サポート）
- ・避難所運営協力防災士約50名
- ・令和2年から市内一部小学校、中学校で防災教育を实践（古川小学校、古川中学校）支部組織、事業部組織を形成し活動をしている

【アピールしたい防災活動の成果】

避難所開設設営&運営訓練に中学生と地域住民と協働実施

- 令和6年度：中学1年生×調理師会での炊き出し訓練実施
市内民間企業考案のパーテーション設置訓練 等
令和7年度：中学校近隣住民に避難者役をしていただき、避難所運営訓練を実施。段ボールベッド組立タイムレース
生徒と避難所運営協力防災士が共に避難所での課題を共有。

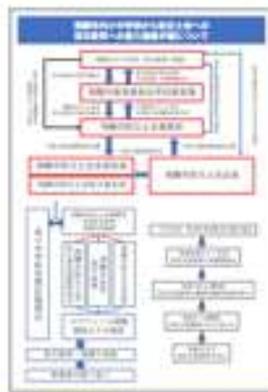


【活動内容の詳細】

防災教育の実施の流れを仕組み化し、各々の負担を減らす

課題）取組前、市内学校から防災教育の依頼が、防災士会、危機管理課へバラバラに行われ、開催日の約1週間前の依頼もあり講師派遣の対応に苦慮。

- 改善）
- ・各校の防災教育の年間計画書の提出（学校→教育委員会）
 - ・市内学校の年間計画に基づき、事前に防災士会にて情報共有並びに講師派遣の流れを防災士会事務局に一本化
 - ・講師派遣依頼書のテンプレート化（行政の見える化講座を参考に形に）
 - ・約1ヶ月前までの講師依頼書の提出で、防災士会内部での事前準備や、関係諸機関への依頼もスムーズにすすむ。



【防災教育の事例】

- ・発達段階にあわせた避難所運営訓練（自助・共助）
- ・生徒の防災マイプロに取り組む悩みを防災士が相談相手になる「防災マイプロ相談会」
- ・防災タウンウォッチングによる学校での防災教育の応用の学びを提供

【活動成果】

<実施者から見た効果>

- ・防災教育への講師協力者が増加した。
- ・実施までの時間的余裕ができたことで内容の検討及び充実化を図れた。
- ・市内各校の防災教育に対する依頼内容の多様化による、防災士の知識の学び直しや対応力の強化に寄与。
- ・防災士の活躍の場の創出ができた。

<参加者等から見た効果>

- ・危機管理課・教育委員会の連携により民間企業、調理師会との新たな関係強化、児童生徒との関わりが密接となった。
- ・学校安全総合支援事業による各学校での防災教育実践事例の活用で、各学校の防災教育のイメージが付きやすくなった。
- ・依頼先の一本化による学校の負担低減に。

我らNDPチームが地域を守る！

～Nanko (南高) Disaster Prevention の取組による意識改革～

【活動内容の特徴】

家庭科の学びから家庭、地域の防災へ

家庭科授業で防災を継続的に扱い、その上で減災力テストを実施、防災への意識の変化を検証した。生徒は防災を学びから自分事として捉え始め、その後の防災に関する企画にも主体的に参加するなど、全校生徒に地域の一員としての防災意識が広まった。

【団体の紹介】

- ・大垣市浅中地域
- ・令和4年4月から現在(4年)
- ・今年度実働生徒：31名/240名
- ・実働教員：2名
- ・学校や地域の防災リーダーとして活躍できることを目標に取り組んでいます！

【アピールしたい防災活動の成果】

防災意識が“自分事”に、そして“地域事”に！

防災を家庭科の学びからスタートし、それを学校全体をあげての活動に広げたことで、右の減災力テスト実施結果のデータからも明らかなように、生徒たちの間に、防災に対する強い意識が生まれ、さらに自身が家庭や地域の一員として「家庭や地域を守る」自覚につながった。



【活動内容の詳細】

様々なアプローチで地域の一員としての自覚が覚醒！

★家庭科授業の他、家庭クラブ主催で以下の様々な企画を行った。

- ①地震体験車による地震体験と防災グッズの展示 (R4)
- ②外部講師によるVRを用いた風水害の浸水疑似体験 (以下R7)
- ③防災食50食の試作及び希望者による試食、防災リーフレットの配布
- ④クラブ員によるバッククッキングの試作やデイサービスでの介助練習
- ⑤外部講師を招聘し携帯トイレの使用法についての講話と実演

⇒その結果、徐々に生徒の防災意識は高まり以下の感想が記された。

- ◆学校の備蓄品は、全校生徒を補える量だとは思えないので、ある程度の想定と準備を個人個人でする必要があると思った。⇒**自助**
- ◆家からの避難経路や学校付近の危険な場所を理解できた。災害に対する日頃の対策について家族と話し合うことが重要。⇒**共助**
- ◆高校生の自分ができることは多いと思うので、地域に対してできることを考え、行動に移したい。⇒**公助**

つまり、地域の一員としての防災意識が覚醒したといえる。



【活動成果】

<教員側から見た効果>

本校は令和元年度より総合的な探究の時間等で防災に取り組んできたが、授業の枠を飛び出し、学校全体の取組として様々な観点から防災の知識や意識を高めるアプローチを行ったことで、生徒たちに家族の一員として、地域の一員として家族や地域を守るという自覚が生まれた。今後も活動を継続していきたい。

<生徒から見た効果>

授業を受ける生徒側も、当初はどこか他人事であったが、外部講師による浸水疑似体験等実際の体感を通して災害の危険を肌で感じることやマイ・タイムラインを作成することで、自らが家庭や地域の一員であり、その未来を担うべき存在であることに気付き、主体的に「地域防災のあり方」を考えられるようになった。

防災・減災は、バズる時代へ ～ 若者に届く防災ショート動画 ～



【活動内容の特徴】

若者の日常に溶け込むエンタメ型の防災・減災

- ① 若者の「日常行動」に合わせた発信
- ② 『減災教室トランプ』を映像教材として再構成
- ③ 3種類の動画形式を使い分けた実践的な試み
- ④ 地域協働による高い発信力の活用と信頼性の確保
- ⑤ 「知る」から「自分事化」へのきっかけづくり

【団体の紹介】

- 主たる活動を行う地域：岐阜市周辺
- 紹介する活動の取組み期間：9ヶ月
- 実働人数：15人／総人数：22人
- アピールポイント：『減災教室トランプ』を使い、子供から大人までが楽しく学べる防災・減災を展開

【アピールしたい防災活動の成果】

TikTokでトータル36,000回再生！ 24歳以下の視聴率5割！

防災を「自分事化」することがなかなかできない若者に防災に興味を持つ「きっかけ」をつくりたいと考え、**TikTokで防災ショート動画**を配信すると、約2万人にリーチ、そのうちの5割は24歳以下の若年層となった。また、約8,000人が繰り返し視聴し、防災意識啓発してくれた。



【活動内容の詳細】

SNS・地域協働・大学防災訓練で防災ショート動画を制作・配信

①減災教室トランプのショート動画化

『減災教室トランプ』に記載されている防災の豆知識をショート動画に再構成し、TikTok&Instagramのリールで配信。



②コラボレーション動画

地域密着型のプロバスケットボールクラブ岐阜スワップスの強みは、ディフェンス！全選手の前向きな協力により、合計14本の防災ショート動画を制作・配信。



③岐阜大学総合防災訓練の安否確認メールへの返信促進動画

昨年度までの岐阜大学総合防災訓練では、安否確認メールへの学生の返信が少なかったため、学生が興味を持つような動画を制作・配信することで、安否確認メールへの返信率向上に繋げようとした。

【活動成果】

＜実施者から見た効果＞

- 累計約36,000回再生！（TikTok）
- 累計約30,000回再生！（Instagram）
- 配信動画の約半数が若年層に届いた。
- 岐阜スワップスという地元スポーツクラブとの協働により、防災を身近に感じ、自分事化するきっかけづくりになった。
- 岐大生の安否確認メールの回答率5%向上。

＜参加者等から見た効果＞

- 意外性があり、テンポよく、クスッと笑える、実用的で身近なコンテンツが良い！
- 水で作るカップラーメンは実際にやってみたくなるし、お得な情報で、とても面白いと感じた！
- 本当に全部の動画が面白い！スワップスを知らない自分でも最後まで見てしまった！

教職員と生徒の対応力・判断力育成のための 防災教育におけるルーブリック評価と振り返りシステムの構築

【活動内容の特徴】

防災教育を自分事化し、命を守る学校文化に

- ・身近な場면을題材にした防災啓発動画を作成。
- ・対応力、判断力、主体性を軸としたルーブリック評価表を職員とともに作成。望ましい姿を明確に。
- ・作成したルーブリックによる訓練振り返りを実施。
- ・防災教育を組織で考えることで属人化防止。

【団体の紹介】

- ・岐阜市立島中学校（生徒数592人）
- ・令和6年4月～令和8年3月（2年）
- ・現在の会員人数1人
（実働人数1人／総人数1人）
- ・『防災を学校教育の中から考える』
生徒と教職員が防災行動を主体的に考え、学校全体で命を守る力を高める取組です。

【アピールしたい防災活動の成果】

教職員と生徒の対応力・判断力育成のための基盤が整った

- ・生徒・職員の防災訓練での姿が主体的な防災行動を取る姿に変化。
- ・訓練運営上の課題を整理し、改善策を検討する教職員が増えた。
- ・生徒の振り返りが感想中心から具体的な行動・判断の記述へと変容。
- ・評価や訓練の記録を共有することで、属人化を防ぐ基盤が整った。

生徒・教職員の振り返りの変化（ルーブリック評価による評価）

評価項目	今年度	変化
生徒 （評価項目数1項目）	47%	+21p
職員 （評価項目数1項目）	24%	+24p
振り返りの特徴	行動・判断・記述に記述	感想執筆

【活動内容の詳細】

①主体的な防災行動の育成（防災学習）

火災・水防・地震の動画資料を作成し「この場に自分がいたらどうするか」を記述したり、生徒同士で話し合いをしたりすることで、主体的な防災行動を考えさせた。動画では校区の過去の浸水写真や教師が実演した場面を取り入れた。



②教職員の対応力向上と組織的成長（教員研修）

危機対応マニュアルを用いたシナリオ研修で、初動対応や役割分担を職員で確認し、学年内で共有した方がよいことなどを話し合うことで、有事における組織的な対応力が高まるようにした。



③振り返りと評価システムの構築（自己評価）

職員研修で抽出された、訓練で身に付けたい力を観点としてルーブリックを作成し、Formsで自己評価を実施。具体的な行動・判断の振り返りを蓄積することで成長を可視化。



④継続性のある防災教育（引継ぎ）

ルーブリック結果と記述を集計し、教職員で共有して次年度の訓練に反映した。評価データを蓄積することで、担当者が替わっても改善が続く仕組みを整えた。

【活動成果】

<実施者から見た効果>

- ・ルーブリック評価を採用したことで、評価の観点が明確になり、望ましい姿といった到達目標が生徒と教職員に共有され、次に向けた改善につながるようになった。
- ・ルーブリックを自助・共助・公共性の視点で学年ごとに整理したことで、生徒の視点は「自分」から「周囲・地域」へと広がった。

<参加者等から見た効果>

- 生徒の振り返りから
- ・地震が起きたら周囲との協力も大切になると思うので、周りの命も守れるようになりたい。
- 教職員の振り返りから
- ・実践的な訓練や研修を行い、より具体的に安全について考えることができた。職員の意識が高まったと思う。

岐阜大生とまなぼうさい!! ～楽しく学んで、未来につなぐ岐阜の防災～

【活動内容の特徴】

連携で広がる、防災の学びと発信

地域や団体と連携して、地域の特色や対象者に合わせた**楽しい防災教室**を実施している。岐阜のプロバスケットボールチーム「岐阜スコープス」と岐阜大学社会システム経営学環高木ゼミと連携して、トレンドを意識した**防災啓発動画を配信**している。

【団体の紹介】

- ・岐阜県岐阜市
- ・令和5年4月～現在（3年）
- ・実働人数12名／総人数12名
- ・『大学生とまなぼうさい!!』
将来を担う小中学生に、楽しい防災を広めるために活動中!!

【アピールしたい防災活動の成果】

防災を「自分事」にする、楽しい体験型活動

体験型学習を通じて、参加者は災害時に役立つ知識や技を楽しみながら身につけ、防災を「**自分事**」として捉えるきっかけとなった。また、一度きりの実施にとどまらず継続的に連携していくことで、地域の防災・減災力の向上につながっている。



【活動内容の詳細】

大学生がつなぐ、岐阜と未来の防災

(1)地域との連携

主に岐阜市内の小中学生を対象に、防災教室を実施している。減災教室トランプや〇×クイズ、紙芝居などを通じて防災の知識を**楽しく学ぶ**活動に加え、液状化実験や新聞紙工作といった**体験型学習**に力を入れている。地域ごとの災害リスクや参加者の年齢層に応じて、教材や伝え方を工夫している。年齢の近い大学生がこどもたちに働きかけることで、**将来の防災の担い手**を育成するとともに、こどもから大人への**防災意識の広がり**を期待している。



(2)大学・スポーツチームとの連携

大学からの依頼を受け、岐阜大学高木ゼミの学生と協働し、学生向けの**防災啓発動画**を制作した。本動画では、岐阜のプロバスケットボールチーム「岐阜スコープス」とコラボレーションし、**スポーツ×防災**による発信力の強化を図った。また、SNSでトレンドを意識した発信を行い、若者だけでなく幅広い層の関心を引くことができた。



【活動成果】

<実施者から見た効果>

自分たちも楽しみながら**楽しい防災教室**が実施できている。体験型学習と知識を学ぶ活動を組み合わせることで、防災を自分事として考えてもらうことができた。こどもたちの笑顔を原動力に、地域・大学・スポーツチームと協力しながら、**岐阜の防災を盛り上げる**活動を続けている。

<参加者等から見た効果>

- 小学校5年生談
「楽しかったです！新聞紙スリッパを家族に見せたいです。」
- こども会のスタッフ談
「防災は楽しく繰り返し学ぶことが大切だと感じた。ぜひ今後も笑顔あふれる防災教室を開催してほしい。」

防災活動大賞 (R8.3.8)

防災活動大賞

清流の国ぎふ 女性防災士会

飛騨市防災士会

岐阜市立島中学校

みんなが選んだ活動大賞

土岐市肥田防災の会

岐阜県立大垣南高等学校 家庭クラブ

岐阜大学 地域マネジメント研究室

地域防災貢献賞

牧田女性防災クラブ

学生と共に 炊き出し大訓練実行委員会

御嵩町上之郷の地域密着型防災士継続

金華自治会連合会

岐阜大学 防災サークルたすく

本日は長時間、誠に疲れさまでした。今回は防災活動大賞として3件、みんなが選んだ特別賞として3件、地域防災貢献賞として5件を選びました。選考にあたっては、活動がもたらす効果、活動の継続性、活動における協働性、他地域における再現性、の4つの観点で選びましたが、ご応募いただいた活動には、それぞれに良さがあり、参考になるポイントが数多くあったと思います。例えば、こういうやり方をしてみるとこんなにうまくいった、というのが理想ですが、うまくいったがこんな課題が残された、あるいは、あまりうまくいかなかったがこんな課題が見つかった、さらには、これまでに見つかった課題をこうやって解決できた、などというのは、防災活動の取り組みの過程では必ずあることで、いずれも成果と言うに値すると思います。

本日の意見交換で得られた情報を、ぜひとも地域に持ち帰って、多くの方々と共有することで、次につなげていただきたいと思います。また、防災活動大賞としては今回が最終回となりますが、このような交流を持ったその後の成果について、お互いに語り合って共有できるような機会が、また形を変えてあることと思います。当センターとしても、そのような交流を支援してゆきたいと考えています。本日は誠にありがとうございました。